

事前評価個表

整理番号	6
------	---

地域（地区）名	わたらせがわ 渡良瀬川	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	栃木県	対象市町村	あしかがし 足利市ほか3市
事業実施期間	H29 ~ H33（5年間）	事業実施主体	県、市、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、栃木県の南西部に位置し、東及び北は鬼怒川地区、西は群馬県、南は茨城県及び埼玉県に接する8市町からなっている（このうち、本地区の民有林面積の98%を占める4市において事業を実施）。</p> <p>本地区の総面積169千haのうち、森林面積は73千ha（森林率43%）、対象民有林は70千ha（森林全体の96%）、うち人工林は44千ha（人工林率63%）となっている。</p> <p>このうち、9割以上がスギ・ヒノキとなっており、北西部の鹿沼市及び南西部の足利市から佐野市にかけての山地は古くからスギ及びヒノキの人工林施業が盛んな地域である。民有林における人工林の齢級構成は、ⅩⅡ齢級がピークとなっており、利用期を迎えた林分の皆伐が増加している状況にある。</p> <p>また、本地区では平成26年2月の雪害（地区内全域）及び同年4月の林野火災（足利市）による森林被害からの復旧を図るため、被害木の伐倒・除去を実施している。</p> <p>一方で、間伐等を要するⅥ～ⅩⅡ齢級が人工林の66%を占めているが、林業採算性の低迷等により必要な施業の遅れが生じている状況にある。</p> <p>また、本地区では、シカ及びクマによる林木への食害・剥皮被害が大きいことも必要な施業が遅延する原因となっている。</p> <p>本事業は、水源涵養、山地災害防止等、森林の有する多面的機能の高度発揮を図るとともに、利用期を迎えた森林資源を活用し持続的な森林経営を実現することを目的とする。</p> <p>このため、伐採箇所における再造林、下刈り及び除伐を適正に実施するとともに、Ⅳ～ⅩⅡ齢級（森林経営計画に基づく森林についてはスギⅩⅣ齢級、ヒノキⅩⅥ齢級以下）の林分については計画的に搬出間伐を実施する。なお、これらの施業にあたっては一貫施業の推進、森林施業の集約化及び路網整備を通じて施業の低コスト化を図るとともに、獣害対策を適切に実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,800ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等</p> <p>総事業費：3,163,541千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 2.39 (総便益(B)=14,058,432千円、総費用(C)=5,891,688千円)</p>
評価結果	<p>必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の多面的機能を高めるためにも必要性が高い。</p> <p>効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>有効性：計画的な森林整備により、水源涵養、山地災害防止、二酸化炭素吸収機能等の多面的機能の高度発揮はもとより、森林資源の有効活用の観点から有効である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

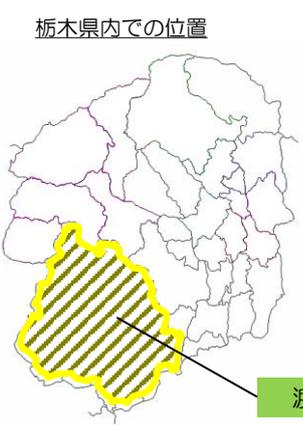
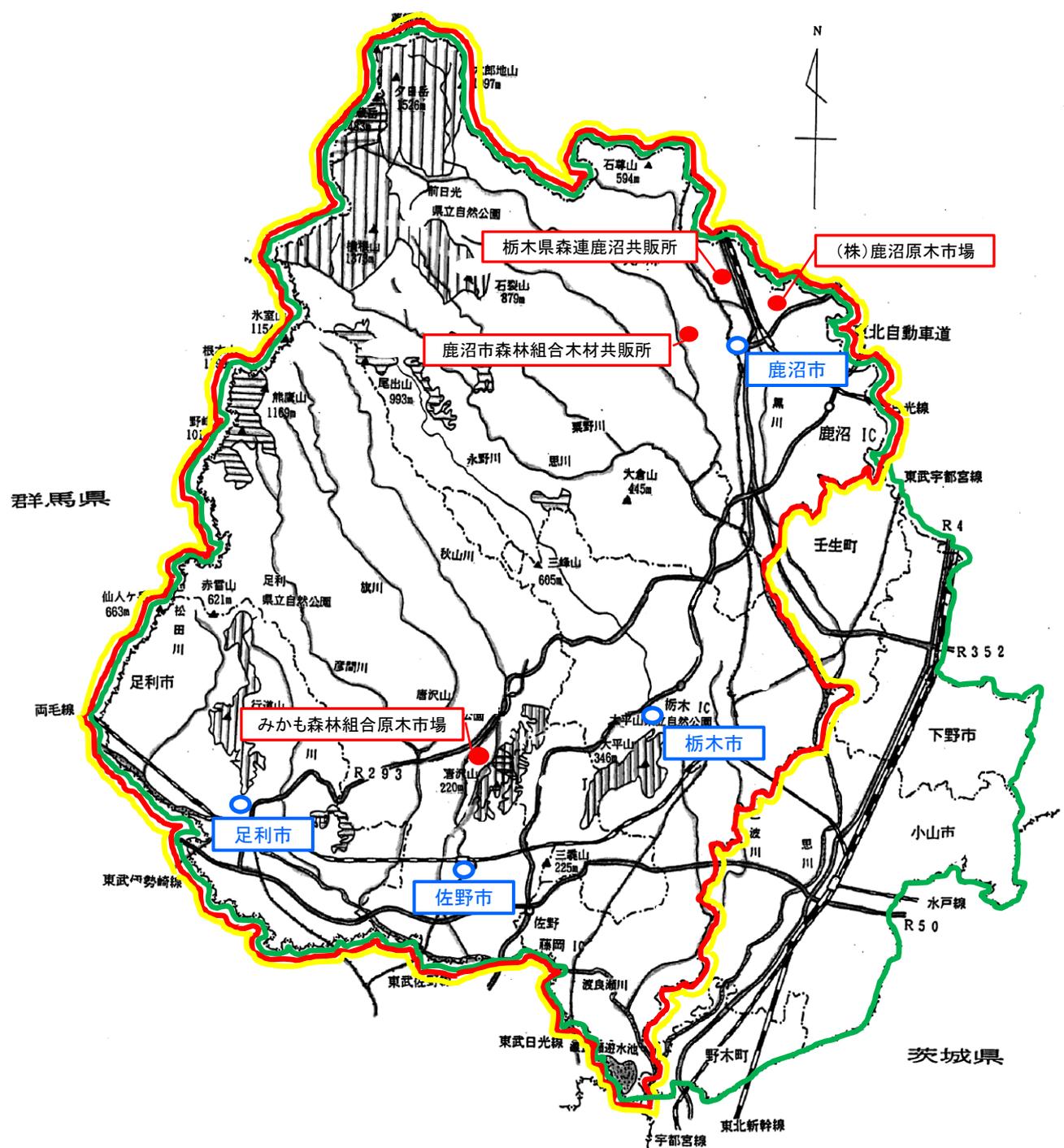
都道府県名：栃木県

地域(地区)名：^{わたらせがわ}渡良瀬川

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源 ^{かん} 涵養便益	洪水防止便益	3,298,335	
	流域貯水便益	927,216	
	水質浄化便益	2,228,770	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,698,960	
	土砂崩壊防止便益	66,689	
環境保全便益	炭素固定便益	2,347,640	
木材生産等便益		1,490,822	
総 便 益 (B)		14,058,432	
総 費 用 (C)		5,891,688	
費用便益比	$B \div C = \frac{14,058,432}{5,891,688} = 2.39$		

森林環境保全整備事業 渡良瀬川地域(栃木県)



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	